

健康を大切に。環境を大切に。

中部公衆だより

No.

1

2013.1



Photo : 飯田市街地と南アルプス



一般財団法人

中部公衆医学研究所

ごあいさつ

理事長
横山 信之



新年あけましておめでとうございます。

一般財団法人 中部公衆医学研究所としての初めて迎えた新年を職員共々、決意を新たに迎えることが出来ました。

昭和31年に財団法人として初代 西澤寛志理事長（西澤病院院長・元長野県議会議員）が中心となり設立、昭和32年診療所開設に始まり、保健管理健診部門の業域を広げ、昭和52年に薬剤師会検査センターを合併し、現在の健康診断・保健指導を中心とした健康作り部と各種の環境測定・調査・検査等を行う環境衛生部の二部制となり、現在の中部公衆の態を整えてまいりました。しかしこの55年間順風満帆に推移してきたわけではなく多くの難局、紆余曲折を経て今日この新年を迎えることが出来たのは、多くの取引先の方々、先輩職員、役員等のご支援とご協力があつ

た賜と思い、深甚なる感謝とお礼を申し上げます。

取り分け、現相談役 西澤寛（2代目理事長）のご尽力が大きかったと思います。卓越した先見性・決断力・強力なリーダーシップに併せ、各界に広い人脈を持ち、職員及び中部公衆を引っ張っていただいたことが、今日の礎になったものと確信しております。

近年の急激な規制緩和、度重なる法改正、健診先の人員減少、ニーズの多様化等、厳しい経営環境となっていますが、私共は常日頃より「サービス業」とあるということを念頭に、その上で精度の向上、管理を図りながら、業務を進めてきております。出来る限り、取引先のニーズ、要望に応えてまいり所存でございます。

ここに「中部公衆だより」第1号を発行する運びとなりましたが、以後適時、状況のお知らせ、情報の開示を行っていききたいと思いますので、ご高覧の上、ご意見等をいただければ幸甚と思います。

新年を迎え、役員・職員一同が決意を新たに、取引先、地域住民の公衆衛生向上の為に、努力をしまし所存でございますので、引き続いて皆様方のご支援、ご協力、ご指導をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

国際標準化に伴い

ヘモグロビン・エイワンシー (HbA1c) が健康診断でも表記が変わります。

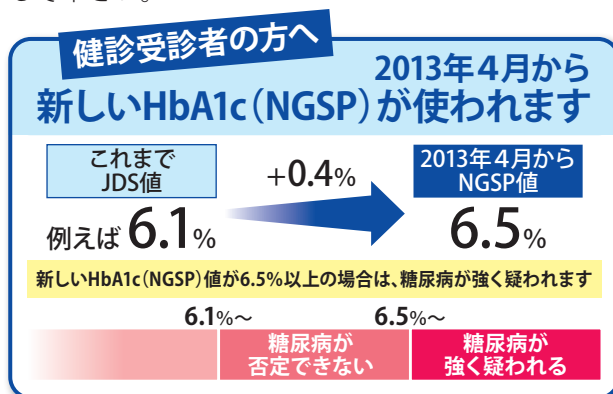
HbA1cは、過去1～2か月の血糖値の平均を反映する数値で、糖尿病の特徴である「慢性的な高血糖」を数値であらわしています。さまざまな研究でHbA1cの値と多くの糖尿病合併症との関係が分かっており、糖尿病の診断や治療で重要となっております。

ではなぜ表記が変わるのでしょうか？

日本では独自の基準であるJDS値を採用し、6.1%以上になると「糖尿病が強く疑われる」としてきました。しかし、糖尿病の治療や研究、新薬の開発などが世界中で行われ、海外で日本の糖尿病患者は軽症であるとの誤解があり、国際的な共同治験や日本発の研究発表の障害となっていました。そこで日本は2010年7月1日に著作物や学会発表からNGSP値への移行を開始しました。2012年4月からは病院などの日常臨床のすべてがNGSP値へ移行され、2013年4月からは健康診断等すべての分野でNGSPの値が使用されることになります。

JDS値で報告された過去の検査データを、NGSP値の検査データと比較する場合はどうすればよいのでしょうか？

通常過去検査データ（JDS値）に+0.4%でNGSP値に換算できます。ただしデータが4.9以下または10.0以上の場合は多少データが異なってきます。糖尿病の治療を受けている方は必ず医師と相談の上で比較して下さい。



インジウム化合物、エチルベンゼン、コバルトおよびその無機化合物の特殊健康診断について

医師 牧野 茂 徳

この度の規則等の改正により「インジウム化合物」、「エチルベンゼン」、「コバルトおよびその無機化合物」の3物質は特定化学物質の第2類物質に追加されました。これらの物質の譲渡・提供時の名称の表示、製造または取り扱う場合は作業主任者の選任、作業環境測定の実施、局所排気装置等の発散抑制の設備、特殊健康診断等が平成 25 年 1 月 1 日から義務づけられました。（一部には、経過措置があります）

これらの物質の特殊健康診断は、対象物の製造・取扱い業務に常時従事する労働者に対し、雇入れの際または配置替えの際および 6 カ月以内ごとに 1 回、定期的に医師による健康診断を行い、結果の記録は 30 年間保存することとなっています。

特殊健康診断項目を見てゆきましょう。

1. インジウム化合物

インジウム化合物（これらをその重量の 1 パーセントを超えて含有する製剤その他の物を含む。）を製造し、または取り扱う業務

- 1) 業務の経歴の調査
- 2) 作業条件の簡易な調査
- 3) インジウム化合物によるせき、たん、息切れ等の自他覚症状の既往歴の有無の検査
- 4) せき、たん、息切れ等の自他覚症状の有無の検査
- 5) 血清インジウムの量の測定
- 6) 血清 K L-6 の量の測定
- 7) 胸部のエックス線直接撮影または特殊なエックス線撮影による検査（雇入れまたは配置替えの際に行う）

二次健康診断

- 1) 作業条件の調査
- 2) 医師が必要と認める場合は、胸部エックス線直接撮影もしくは特殊なエックス線撮影による検査、血清 S P-D の検査等の血液化学検査、肺機能検査、喀たんの細胞診または気管支鏡検査

2. エチルベンゼン

エチルベンゼン（これらをその重量の 1 パーセントを超えて含有する製剤その他の物を含む。）を製造し、または取り扱う業務

- 1) 業務の経歴の調査
- 2) 作業条件の簡易な検査
- 3) エチルベンゼンによる眼の痛み、発赤、せき、咽頭痛、鼻腔刺激症状、頭痛、倦怠感等の自他覚症状の既往歴の有無の検査
- 4) 眼の痛み、発赤、せき、咽頭痛、鼻腔刺激症状、頭痛、倦怠感等の自他覚症状の有無の検査
- 5) 尿中マンデル酸の量の測定

二次健康診断

- 1) 作業条件の調査
- 2) 医師が必要と認める場合は神経学的検査、肝機能検査または腎機能検査

3. コバルトおよびその無機化合物

コバルトまたはその無機化合物（これらの物をその重量の 1 パーセントを超えて含有する製剤その他の物を含む。）を製造し、または取り扱う業務

- 1) 業務の経歴の調査
- 2) 作業条件の簡易な調査
- 3) コバルトまたはその無機化合物によるせき、息苦しさ、息切れ、喘鳴、皮膚炎等の自他覚症状の既往歴の有無の検査
- 4) せき、息苦しさ、息切れ、喘鳴、皮膚炎等の自他覚症状の有無の検査

二次健康診断

- 1) 作業条件の調査
- 2) 尿中コバルト量の測定
- 3) 医師が必要と認める場合は、胸部のエックス線直接撮影もしくは特殊なエックス線撮影による検査、肺機能検査、心電図検査または皮膚貼付試験

いわゆる“放射能”について

日本中が心を痛めた東日本大震災、そしてほぼ同時に起こった福島第一原発事故に伴う放射性物質の大量放出は、私たちの暮らしに大きな変化をもたらしました。今回は、今まで私たちにはあまりなじみのなかった放射線、放射能、放射性物質について書いてみたいと思います。

まず、テレビなどで放射能を浴びた、という報道がありますが、これは間違いです。正確には放射線を浴びる、という表現となります。放射能の正しい言葉の使い方としては、放射性物質、例えばセシウムやプルトニウムは強い放射能を持っている、といった表現になります。

放射線とは放出されるエネルギーの事で、いわゆる電磁波や粒子線の事を言います。放射性物質とは放射線を出す物質その物、そして放射能は放射線を出す能力のことを言います。

これを分かりやすく照明灯に例えると、放射線が光、放射性物質が照明器具、放射能が電流を光に変える能力となります。

放射性物質は、一定の時間が経つと放射線を出す力が半分になる性質を持ちます。この期間の事を半減期といいます。ヨウ素などのように8日程度と短いものもありますが、非常に長いものも多く、セシウムで30年程度、プルトニウム239になると、2万年程度にも及びます。避難区域などで放射性物質の除染が積極的に行われているのは、このためです。

放射性物質は非常に細かい粒子なので、チリや花粉が風に乗って移動するように、空中をふわふわと漂って移動します。したがって放射性物質の汚染は、風の吹く方向に大きく影響を受けます。福島第一原発事故後の汚染地域に大きな差が出たのも、このた

めです。

放射性物質は、山林や川などの環境に始まり、米や野菜の農作物に至るまで、私たちの身の回りの物すべてに付着します。もちろん私たち自身の皮膚や髪の毛にも同じように付着します。

ここで私たちが一番気をつけなくてはならないことは、放射性物質が付着した食べ物や水などを、知らず知らずのうちに体に取り込んでしまうことです。汚染された食べ物や飲み物は体の中に入り、放射性物質の大きさにより、呼吸器系・消化器系のいずれかに付着します。そこから血液を通じ、沈着しやすい臓器・骨・筋肉等に運ばれ、体内に入ってから排泄されるまでの間、体の中から放射線を長期間出し続けることになります。これを内部被ばくと言います。

内部被ばくを防ぐには、放射性物質が付着しているものを口にしないのが一番ですが、目で見て判断できるものではありません。放射性物質の有無を確認するためには、放射能検査を行うことが必要となります。

**当研究所では、
放射能に関する検査や相談を
行っております。**

お問い合わせは、環境衛生部までお願いします。

TEL. 0265-24-1509 又は

E-mail skoba@chubukosyu.or.jp



この度は本誌の発刊にあたり、飯田市観光課様を初め、様々な方々のご協力を頂きました。心よりお礼申し上げます。お読み頂く皆様にとって少しでも参考になる内容を目指しておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。(機関紙発行委員会)

中部公衆だより
第1号

発行

一般財団法人 中部公衆医学研究所 〒395-0051 長野県飯田市高羽町6丁目2-2
電話(0265)24-1777(代表) FAX(0265)24-2330 <http://www.chubukosyu.or.jp>
健康づくり部 企画情報課:(0265)24-1505 健康相談課:(0265)24-1507 環境衛生部:(0265)24-1509